

もも・ネクタリン特報 ①

H31. 3. 8 No.1
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

本年は暖冬傾向・少雪で雪解けが早く、発芽は平年より早まると予想されます。休眠期防除が遅れないよう、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等の準備を段取りよく進めましょう。

(参考：過去 4 カ年の発芽日、平岡地区)

白 鳳	平年	H30	H29	H28	H27	H26	H25
発芽日	4/2	3/29	4/7	3/30	3/31	4/2	3/28



【休眠期（発芽前）の散布】

- ◎昨年、縮葉病が発生した園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地は、休眠期の防除を徹底しましょう。
特に、縮葉病は薬剤のかかりにくい部分（樹の上部や先端）に多く発生が見られます。薬剤散布時は、樹全体に薬液がかかるよう、丁寧に散布しましょう。
- ◎トレノックスフロアブル体系と石灰硫黄合剤体系の 2 体系を記載しています。

下記の内容をよく読み、いずれかを選択して散布を実施下さい。

①

トレノックスフロアブル

体系

散布日	月	日
散布量		リットル

散布時期：発芽前(3 月下旬)

散布薬剤	水	9 8	リットル	当り
	スプレーオイル	2	リットル	
	トレノックスフロアブル	2 0 0	ml	

対象病虫害：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類

散布量：10 アール当り 300 リットル

【注意事項】

①

カイガラムシ類の多発園は、アブロードフロアブルの 1,000 倍(14 日前、3 回)を加用する。

②

トレノックスフロアブルに代えて、キンセツ水和剤 80 の 1,000 倍でもよい。

③

混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ トレノックスフロアブル

②

石灰硫黄合剤

体系

散布日	月	日
散布量		リットル

散布時期：発芽前(3 月下旬)

散布薬剤	水	9 0	リットル	当り
	展着剤	1 0	ml	
	石灰硫黄合剤	1 0	リットル	

対象病虫害：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類

散布量：10 アール当り 300 リットル

【注意事項】

①

カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル 50 倍を合剤散布の 5～6 日前に単用散布する。

②

石灰硫黄合剤は、隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。

③

混用順：水 ⇒ 展着剤 ⇒ 石灰硫黄合剤

【農薬使用基準】

- *トレノックスフロアブル・・・もも⇒収穫 7 日前まで、5 回以内。 ネク⇒収穫 30 日前まで、5 回以内。
- *キンセツ水和剤 80・・・もも⇒開花直前まで(但し収穫 60 日前まで)、5 回以内。 ネク⇒開花直前まで、5 回以内。

【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① カイガラムシ類の多発園は、被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を実施する。(または、被害枝を切除する)
- ② せん孔細菌病発生園は、開花 5～7 日前にキンセツ水和剤 80 の 1,000 倍を特別散布する。
*枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ コスカシバの発生園では被害部の樹脂を取り除き、ガットサイド S1.5 倍液(もも 30 日前、1 回。ネクタリン登録なし)を樹幹部に塗布、または、フェニックスフロアブルの 500 倍(開花期まで、1 回)を樹幹部に散布する。

次頁も必ずご覧ください

【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3～4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発地域では、以下の事項にご注意ください。

①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4月下旬頃に除去する）

*薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるため、凍害・枯死が多発する園地、および6～7年生までの若木のみ除去を遅らせる。

②排水性の悪い園地では、暗きょや明きょ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えとする。（定植方法は下記参照）

③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等で緩和に努める。

【苗木の植え付けについて】

①植え穴は苗木の根の2倍の大きさに、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)を混ぜて埋め戻し、定植に備える。

*ユーキリン(20kg：3,826円)、もみがらくん炭(300：496円)、エアープイント(18kg：529円)は、営農センターにて取り扱っております。

②特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。（3月下旬～4月上旬に定植する。）

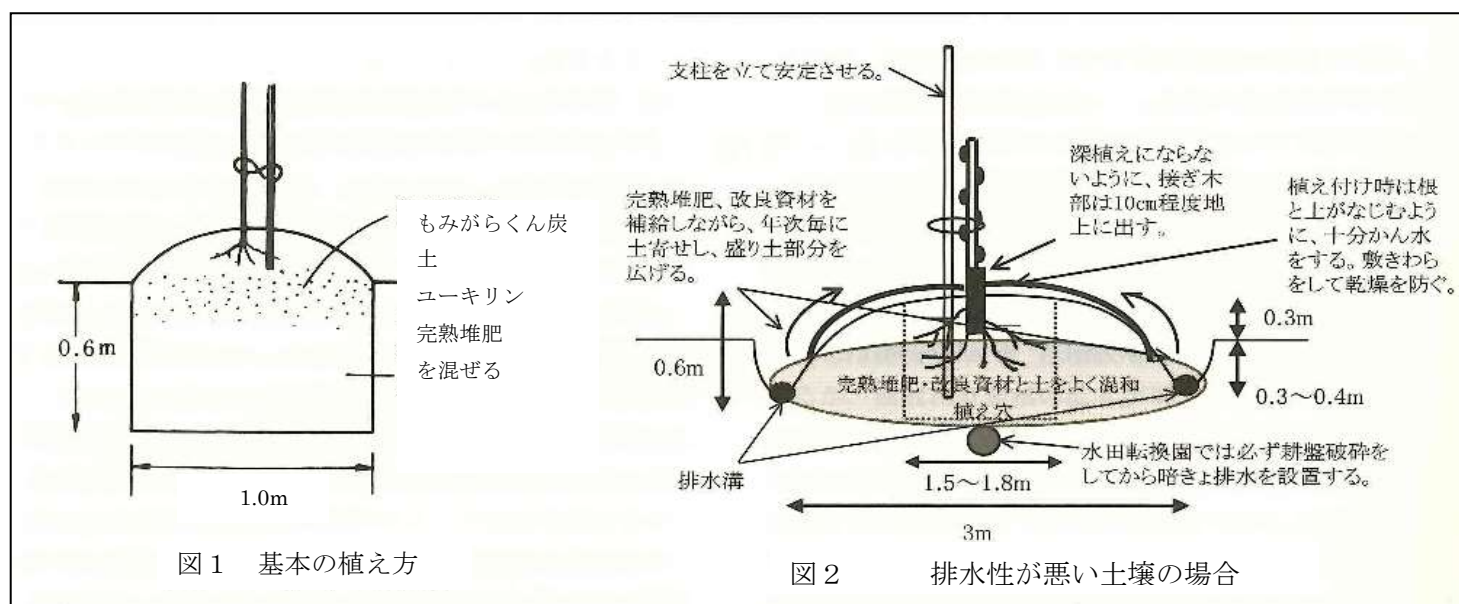
③植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。

太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。

④植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

⑤苗木は支柱を立て固定し、揺れを防ぐ。

⑥苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。



【摘蕾】：結実の良い品種（白鳳、あかつき、なつっこ等）は必ず実施する。

時期：4月上～中旬（蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が効率良い）

遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

◎摘蕾の方法

- ①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。
- ②真上、真下の蕾を除く。斜め、横向きは残す。
- ③結果枝の長さによる、摘蕾方法は右図を参照。

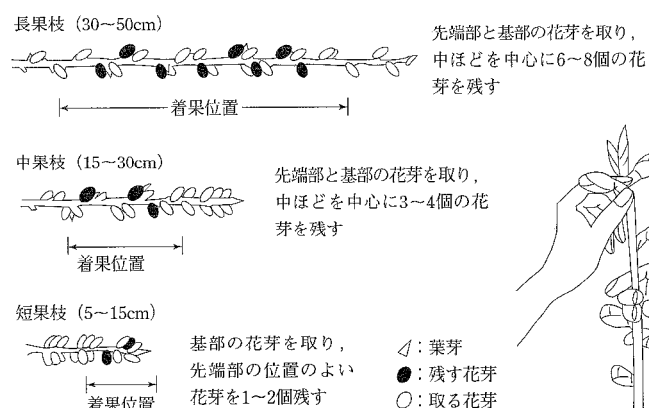


図1-10 摘蕾の方法